

研修費（竹村克司）出張報告書

令和7年11月10日

氏名 竹村 克司	研修会等題名 第87回全国都市問題会議
期間 令和7年10月9日から 令和6年10月10日まで	研修会等会場（市区町村名） ライトキューブ宇都宮

研修会概要・意見等

人口減少社会における持続可能なまちづくりについて

第87回全国都市問題会議に参加させて頂きました。この視察は、人口が減っていくこれからの時代に、どのようにすれば地域が住みやすく、持続できるまちになるのかを学び、今後のまちづくりに活かすことを目的として行きました。

今回の視察では、日本の人口減少と、それに対応するまちづくりについて学びました。まず、日本は2008年をピークに人口が減り始め、高齢化や地域の衰退といった問題が進んでいます。しかし、この変化は「悪いこと」ではなく、生活の質や幸せを大切にする社会へ変わるチャンスでもあると説明されました。これからの社会では、お金やGDPだけでなく、人とのつながり、自然環境、心の豊かさといったことが大切になります。また、人が都市に集中するよりも、地方に分かれて暮らす「分散型の社会」のほうが、幸せや暮らしやすさが高くなることもわかりました。

具体的な取り組みとしては、公共交通を中心としたまちづくり、歩いて生活できる「コンパクトなまち」、商店街を地域の交流の場として活用すること、などが紹介されました。さらに、宇都宮市ではLRT（次世代型の路面電車）を導入し、移動が便利になるだけでなく、環境や経済にも良い影響が出ていることがわかりました。

また、公共施設については、すべてを維持するのではなく、「小さくしても充実させる」という考え方で効率よく運営することが大切だと学びました。

これからの社会では、医療・環境・食・文化といった「地域に根ざした分野」が重要になり、地域の特徴を活かすことが必要であると説明されました。

今回の視察を通して、特に重要だと感じたことは、

(1) 人口が減ることを前提に考える必要がある

これからの日本では、人口が増える可能性は低く、そのため、「どうやって人を増やすか」だけでなく、「人が減っても成り立つまち」を考えることが大切だと思いました。下関市でも同じように、人口減少を前提にした新しいまちづくりが必要だと感じます。

(2) 公共交通の大切さ

宇都宮市のLRTの例を見て、公共交通はとても重要だと思いました。

公共交通があることで、高齢者でも移動しやすくなる、車の利用が減り、環境にやさしくなる、人の流れができて地域が活性化する、といった多くのメリットがあります。下関市でも、車に頼りすぎないまちづくりを考えていく必要があると思います。

(3) 人が集まる「居場所」をつくること

人口が減る社会では、人と人とのつながりがより大切になります。商店街や公共スペースを活用して、誰でも気軽に集まれる場所をつくることが重要だと感じました。こうした場所があることで、地域の安心感や満足度が高まると思います。

(4) 公共施設の見直しが必要

今後、人が少なくなるため、すべての施設を維持するのは難しくなります。そのため、よく使われている施設に絞る、いくつかの機能をまとめる、無駄を減らす、といった工夫が必要です。下関市でも、将来を見据えて計画的に見直すことが大切だと感じました。

(5) 地域の強みを活かすこと

これからは、地域ごとの特徴がとても重要になります。下関市には、海や水産資源、歴史や文化といった強みがあります。これらを活かして、地域の中でお金や人が回る仕組みをつくる必要があります。

(6) いろいろな人が活躍できる社会

ますます働き方や生き方が多様になる時代です。特に、女性の活躍、子育て支援、若者の定着が重要になります。誰もが安心して暮らせる環境をつくるのが、結果として地域の元気につながると感じました。

今回の視察を通して、これからのまちづくりには大きな考え方の転換が必要だとわかりました。人口が減る中でも、コンパクトで暮らしやすいまち、公共交通を活かした移動、人とのつながりを大切にする社会、地域の強みを活かす取り組みを進めることで、持続可能な地域をつくることができると考えます。下関市においても、これらの考え方を取り入れながら、将来に向けたまちづくりを進めていくことが重要だと思いました。今回の研修を糧に地域に必要な政策や制度を提案できるよう勉強し、市民の皆様の意見を聞き、安心して暮らせる街にするために努力してまいります。